

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

評価の評価基準 4:十分達成している 3:概ね達成している 2:改善を要する部分がある 1:大いに改善を要する

出雲市立東幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取組
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○恵まれた自然環境や教育施設をしっかりと活用することができた。 ○年長の単独学級、年少・年中の混合学級とも、年齢構成に応じた活動を工夫した。特に、混合学級では、年齢差を考慮し担任と補助者が連携を図りながら指導にあたった。 ○毎月指導計画を立てて実践し、月終わりに振り返りを行い次につなげている。この積み重ねで指導の改善・充実を図っている。	3	【①学年・学級経営】 ○指導計画を月ごとに振り返り、もっとよくしようと努められた結果が保護者の評価に出ている。 ○年長園外保育の糞分浄水場など、意外に知らない所に行かれたのはよかった。園周辺にも知らないことがたくさんあり、子供目線での発見のおもしろさを保護者として知ることができてよかった。 ○地域資源を取り入れながら、子供たちの思いや願いを大切にした活動が展開されていて、子供たちは夢中になって取り組んでいた。子供たちが地域に出かけた際に興味をもったものを教材化する取組は、今後も継続していただきたい。 ○小学校でも「聞くこと」「話すこと」を大切にしている。「月初め集会」「振り返りの場」の設定などを活用した取組により、子供たちの「聞く力」が高まっていると感じる。 ○年長児が入園したときから3年間、毎年目覚ましく成長する園児の姿を見てきた。「めざす姿」を全職員が共有し、一人一人の園児を把握し、よさを引き出す教育に取り組まれた成果だと思う。一方「ゆとり」の必要性も感じた。(「②幼児理解」にも関連) 【②幼児理解】 ○少人数のよさを生かし、教職員が子供たち一人一人の実態や発達段階に応じた支援を行うことにより、子供たちが安心して生活しているように感じる。 ○少人数ならではのメリットを生かし、個性を尊重したきめ細やかな教育が可能。年齢を超えた横断的な教育が取り込まれている。(「④人権・同和教育」にも関連) 【③特別支援教育】 ○園児の急な車椅子での活動にもよく対応し寄り添ってもらい、落ち着いて過ごすことができた。 【⑤行事】 ○「セタ子ども夏まつり」は、今後、園児数が減るので、子供のお店は各クラス1つとしてもよいのではないかと。1つのお店で、店員、お客の時間をきちんと区切った方が、先生方の負担も減るのではないかと。 ○園児が主体となるように工夫されている。運動会や生活発表会など、子供たちの声で進行されていた。 ○ふだんの活動の成果発表の場としての位置づけ、ねらい・目標や目指す子供の姿の明確化等、行事を計画・運営する方針がはっきりしている。 ○園児の興味関心と教師の願い(育てたい力)の融合のすばらしさを感じた。一方、幼児期の主体性を育むために、教師の意図が前面に出すぎないことも必要かもしれない。 ○園児の自主性が育てられている。 【⑥保幼小連携】 ○園児のみなさんが小学校の行事を見学され、よい交流となっている。 ○管理職が参加した保育・授業参観交流会がとてもよかった。今後は、管理職以外の職員にも参加させたい。幼稚園職員のみなさんには、小学校の研究授業・研究協議に参加していただきたい。教育や取組内容についての理解が深まり、一層の連携が進むと思う。 ○幼小の職員の合同研修会、職員交流(体験実習)など、職員間の連携を推進していきたい。 ○幼小連携は、小学校入学のための準備期間としての連携ではなく、「育てたい力」を共有し、発達段階に応じた方法で育むことが大切ではないか。(例)生活習慣の形成、思考力・自主性・コミュニケーション力の育成、等 ○朝陽小との地の利を生かした連携は、東幼稚園の強みと思われる。 ○朝陽小と様々な面で工夫しながら連携をされていると思う。	○今後も関係機関・団体等との情報交換に努め、園にかかわる人材や周辺の教育施設、豊かな自然、文化等をしっかりと活用していく。 ○指導のねらい、目標を明確にし、年齢相応、個に応じた保育を充実させる。 ○「よく聞く」「よく話す」は学びの基礎と捉え、様々な場面で充実させる。 ○「めざす姿」をはじめ、子供に関わる情報、意識は全職員が共有する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	○担任、補助者がそれぞれの立場で子供一人一人の個性や特徴を把握するとともに、情報を共有するよう努めた。 ○「ほめて育てる・ほめて伸ばす」を基本にやる気を高めさせた。苦手なことにも取り組めるよう、少しずつ分けてやらせる、ある程度のところまで教師と一緒にやるなどの支援を行った。	2	○園長、担当者は、子供に関する情報を全職員に周知し、同じスタンスで指導にあたる。 ○個人面談は全保護者対象実施を継続し、保護者と園とが同じ気持ちで子育てに向かう。	
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○子供の情報を全職員が共通理解して支援にあたった。家庭、園での様子を保護者と共有し、同じ気持ちで子供に接した。 ○小学校から子供の様子を見に来てもらい、情報提供を行った。 ○出雲市の巡回相談を活用し、よりよい支援につなげた。	3	○子供の状況や保護者の願いを全職員が共有する。特に、補助者への情報提供を欠かさないようにする。 ○子供に関する情報や指導の様子を保護者に知らせるとともに、家庭の様子も聞き、園と家庭とが同じ認識で子供の支援、指導にあたる。 ○子供の困り感に寄り添い、臨機応変に対応する。	
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○教職員は、日頃からどの子供にも平等に接する、言葉遣いに気を付けるなど、よいふるまいをするよう努めた。 ○子供間での言動に気を配り、不適切な言動があれば、その場で具体的に指導するよう心がけた。	3	○子供も大人も大事な一人一人であるという意識をもち、年齢差や性差に関係なく、個々の人格を認め大事にしていく。 ○子供が、善悪の判断をきちんと行えるよう、具体的な場面を捉え適時に指導をする。	
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○保護者アンケートでは、100%「そう思う」と園の取組を大いに評価していただき、励みになる。これは、行事のねらいを明確にし、年齢に応じためざす子供の姿を意識しながら指導にあたった成果と思われる。 ○行事ごとに保護者からいただいた感想でも「成長を感じた」という内容が多くあった。	3	○行事のねらいを明確にし、そこから逆算して日々の保育を組み立てる。 ○子供たちの興味・関心や発案が反映された活動を行っていく。「自分たちで作り上げる」という気持ちをもたせる。 ○教師の願いや思いもきちんと盛り込み、子供の成長につなげる。	
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○最寄りの朝陽小学校へは、体育会や学習発表会の練習を見に行くことができた。 ○年長児は、朝陽小学校見学を行い、小学校への期待を高めさせた。	3	○「出雲市保幼小連携推進事業」(R7～R9)のモデル地域指定を機に、幼小の教職員交流(保育・授業参観、体験)を計画的に進めていく。	
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	○子供に関する情報は、電話や連絡帳を使ってこまめに連絡をするようにした。特に、健康面に関することは電話で伝えたり、預かり利用者には迎えの時等に直接話したりした。 ○地域の行事に参加したり、地域の方と共に活動したりして地域連携を図るようにした。また、未就園児教室も定期的に行い、本園のよさを知ってもらうよう努めた。	3	幼稚園と保護者、幼稚園と地域が連携して教育に取り組んでいるでしょうか。 ○「セタ子ども夏まつり」に東コミセンも参加され、にぎやかさが増して子供たちも喜んでた。今後も続けてほしい。 ○「園報」「幼稚園だより」は、写真が多くて様子が分かりやすい。 ○園の様子が多よりやブログ等で細やかに情報発信されており、保護者の評価からもその充実ぶりがうかがえる。こまめな情報発信には労力や工夫が必要となり負担もあると思うが、今後も継続してほしい。 ○園と家庭との連携、情報共有が一層深まっている。 ○地域人材との協力をよくされていて、地域の特色を生かした活動につながっている。 ○積極的に地域との連携をされている。 ○保護者アンケートで、食事問題の評価が低いことについて、公教育は家庭への教育も大切な役割なので、保育公開日を研修の場に行きたくないか。	○子供たちの頑張りや成長の様子をクラスだよりや園広報紙で具体的に伝えていく。 ○日々の様子は、ブログでタイムリーに発信する。 ○地域行事へ積極的に参加し、子供たちが頑張っている姿を見てもらう。東コミセンのように、地域からも園にどンドン来てもらう。 ○毎年度、保育公開日にあわせ保護者研修会を行っている。主に人権・同和教育に関する内容。必要に応じ、研修内容を変えていってもよい。
	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○出雲市幼稚園教育研究会(市幼研)で行う教育研究大会保育公開に参加し、自己研鑽に努めた。 ○市幼研の講演会や領域別研修会に参加し、課題意識をもちながら研修した。	3	教職員は、園内研修や園外研修への参加など、自己研鑽のため、進んで研究・研修に取り組んでいるでしょうか。 ○日頃から、子供たちのために研究・研修と、保育後も勉強しておられ頭が下がる。子供たちのためにありがとうございます。 ○日々の保育から、常に研修を積まれているということが分かる。 ○市立幼稚園が果たしている研究の主導的役割を維持し、保育所のよさも取り入れるために合同の研修を行って、市全体の幼児教育レベルを向上させてほしい。 ○保育・授業参観交流会に参加し、幼稚園の取組がよく分かった。今後も案内してほしい。	○令和8年度は、本園で市幼研教育研究大会保育公開(東ブロック)が予定されている。これを一つの目標にし、園内研修を計画的に行っていく。 ○幼小相互の保育・授業参観は、「出雲市保幼小連携推進事業」推進のためにも有益である。来年度当初、小学校と協議し計画を立てたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○職員は、担当の園務について、他の職員とも相談しながら取り組むよう努力した。担当外であってもお互いに気付いたところを補い合った。 ○限られた職員数で業務にあたらなければならないが、保育や保育にかかる準備等を優先させると、十分に対応できなかったり、時間外で処理せざるを得ないなど、課題もある。	3		○限られた職員数なので、内容に応じ軽重を付けながら取り組んでいく。 ○子供たちにとって必要かどうかを優先し、思い切った活動の見直しも必要である。
	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○園児、職員とも手洗いうがい等基本的な衛生管理を心がけた。 ○避難訓練、不審者対応訓練・防犯教室を計画的に行った。避難訓練にあわせ、保護者への引き渡し訓練も行った。おおむね、スムーズに実施することができた。	3	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制が整えられ、適切な対応がとられているでしょうか。 ○1月6日の地震では、子供から「びっくりしたけど(避難)できたよ」と聞いたので、日頃の訓練のおかげであわてなかったのだと思った。 ○小学校では、避難訓練を休み時間中に実施した。災害発生時に教員がいつも近くにいるとは限らないからである。 ○毎朝の園長の立哨と声かけは、子供・園周辺の状況把握につながり、防犯や危機管理にとっても有効だと感じている。	○実際の災害時を想定して、実施方法を見直ししながら、避難訓練や引き渡し訓練をしていく。事前予告のない避難訓練は、これまででも実施しており、今後も継続する。 ○基本的な衛生管理を行い、子供たちや職員の健康・安全を確保する。 ○園駐車場内での事故等がないよう、立哨、点検を継続する。本年度設置された防犯カメラも(玄関・園庭・北側駐車場の3か所)活用する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月、職員で園舎内外、遊具の安全点検を行った。修理が必要な箇所は、早急に対応するようにしている。 ○夏場の園庭の除草は、保護者ボランティアにもお世話になった。	2	園地・園舎・遊具等の施設・設備について、定期的な点検し、必要な改善・管理が行われているでしょうか。 ○運営協議会で話題になった「園庭整備外部委託」は難しいか。 ○保護者の人数が限られた中での応援態勢は必要と思われる。 ○職員数、保護者数が減る中、工夫をされながら整備されていると思う。 ○小学校の校務員も可能な限り幼稚園の環境整備への協力をする。 ○いつも気持ちのよい環境整備がなされている。小学校では、毎月、職員による点検をしているが、違う視点での点検も必要だと考えている。例えば、保育公開の際に保護者に遊具や園舎を見てもらうと、職員では気付かなかったことへの指摘もあるかもしれない。	○園庭の環境維持は、来年度も、朝陽小・学校校務員に援助を依頼する。また、保護者ボランティアも募る。 ○さらに、可能ならば地域ボランティアも呼びかける。 ○安全点検の視点は、職員だけでなく保護者に見てもらうことも検討する。